

着替えに時間のかかる母、 これも認知症の症状？

Q 簡単な着替えにも手間取るのは認知症の症状ですか。

A 着替えや日常の動作が 困難になる症状があります。

これは、**脳の障害によつて体を思い通りに動かせなくなる「失行」**という症状のひとつです。

手

足は問題なく動くのにボタンをうまくとめられない、衣類の前後や裏表を間違つて着るなど、着替えがスムーズにできなくなるのは、認知症の人によく見られる症状です。

これは、**脳の障害によつて体を思い通りに動かせなくなる「失行」**という症状のひとつです。

着替えだけでなく、例えば、箸を使って食事ができない、ペンを握って文字を書けない、カギを回してドアを開けられないなど、日常生活で何気なく行っていた動作ができなくなります。

また、「手を振つて」「立ち上がつて」と言われても、その通りの動きができないこともあります。

目

目の前の物や状況を理解するのが難しくなります。

「失行」が、衣類の着方や道具の使い方が分からなくなる、目的通りに体を動かすのが困難になるのに対して、「**失認**」は、**目の前の物や状況を理解するのが難しくなります。**

自分のいる場所が分からずに迷子になったり、親しい人の顔が次第に分からなくなったりするのも失認にあたります。

失行や失認は、認知症になると誰にでも現れる

症状です。具体的に何が困難になるかは人によつて異なりますが、下記のようなさまざまな症状があることを、家族や周囲の人が理解しておくことが大切です。

特に失行の症状は、本人の意思に反して起こることが多いため、本人もショックやストレスを感じています。うまくできないことを家族は急かしたり責めたりせず、本人がこれ以上傷つかないように配慮しましょう。手本を見せたり、手足の動かし方を細かく伝えたりすればできることもあります。できることは自分でやってもらい、苦手な部分だけをフォローしてあげるとよいでしょう。

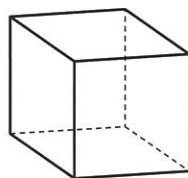
失行・失認の症状

失行

手足の麻痺がないのに、簡単な日常動作ができなくなる。

例

- ・ハサミを使って紙を切れない
- ・歯ブラシで歯を磨けない
- ・お茶を淹れる手順が分からない
- ・新しい家電製品の使い方を覚えられない
- ・右図のような立方体を正しく模写できない



失認

視覚や聴覚などの五感に異常がないのに、正常に識別できなくなる。

例

- ・その音が何かを識別できない
- ・言葉の意味を理解できない
- ・見た物が何かを識別できない
- ・触った質感や重さが分からない
- ・人の顔を識別できない
- ・どちらが右か左か分からない
- ・自分の手指を自分のものと識別できない
- ・慣れた場所にいても、どこなのか分からない



指導 うらかみ かつや
浦上 克哉

鳥取大学医学部
認知症予防学講座・教授、
日本認知症予防学会代表理事